

## 第3章

### 学習に関する意識調査

# I 小学校における学習に関する意識調査について

## 1 調査の概要

本意識調査は、次の6点の事項について第5学年の児童に質問した。

(1) 各教科の内容の理解の程度について

(2) 各教科の内容が分かるための要因について

上記(1)で、「授業がよくわかる」、または「どちらかといえば分かる」と回答した児童を対象に質問した。

■学習方法 ■教員の姿勢 ■学習者の姿勢 ■その他

(3) 算数の学習について

(4) 学校以外での学習について

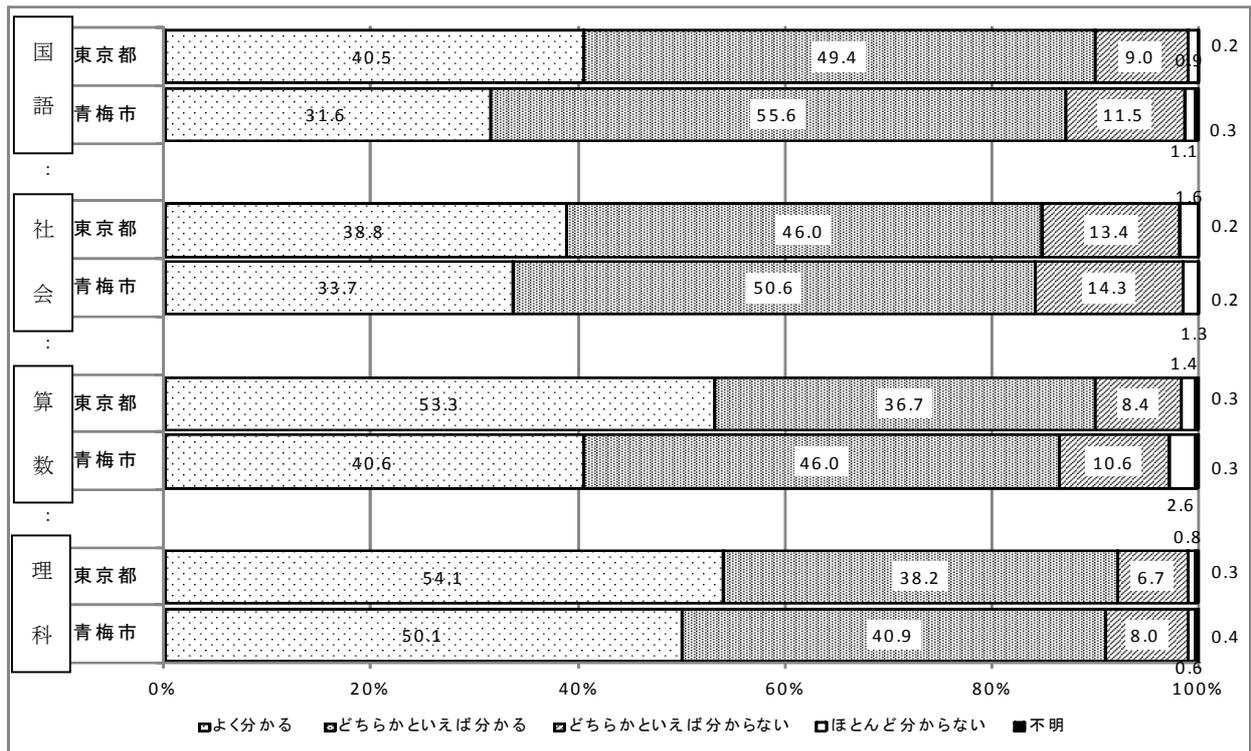
(5) 理科に関する意識について

(6) 生活や行動について

## 2 調査結果の概要

(1) 各教科の内容の理解の程度について

授業の内容はどのくらい分かりますか。



授業内容の理解度と 正答率との関係	平均正答率 (%) ( )内は東京都の数値			
	国語	社会	算数	理科
よく分かる	76.4(81.5)	70.7(77.7)	59.2(70.7)	64.4(70.3)
どちらかといえば分かる	67.9(71.9)	66.3(68.5)	53.5(56.5)	58.9(61.8)
どちらかといえば分からない	57.0(60.4)	55.9(59.8)	47.6(42.7)	53.7(52.7)
ほとんど分からない	47.0(48.2)	42.6(50.4)	42.2(33.1)	34.4(45.0)

平成26年度の第5学年において、授業の内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合は、国語が87.2%(89.9%)、社会が84.3%(84.8%)、算数が

86.6%(90.0%)、理科が 91.0%(92.3%)である。※( )内は東京都の数値

東京都と比較してみると、授業が「よくわかる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合は、国語が 2.7 ポイント、社会が 0.5 ポイント、算数が 3.4 ポイント、理科が 1.3 ポイント低くなっている。

平均正答率との関連で見ると、調査を実施した全ての教科において、授業が「よくわかる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童の平均正答率が、「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した児童の平均正答率よりも高くなっている。

## (2) 授業の内容が分かる要因について

次の表は、授業の内容が分かる要因について、児童が教科等ごとに回答した割合が 10% 以上のもの（青梅市）を示したものである。（数字は回答率、複数回答）

	質 問 内 容	東京都	青梅市
国 語	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	45.0%	43.5%
	国語の授業での先生の教え方がていねいだから	45.9%	44.1%
	出された宿題をきちんとやっているから	50.6%	49.5%
	読書が好きだから	49.7%	45.1%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	36.7%	33.9%
	塾や家庭で教えてもらっているから	40.6%	27.6%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.6%	23.9%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	16.6%	17.9%
	分からないときには自分で調べるから	19.6%	18.3%
	自分で課題を選んで学習する授業があるから	14.0%	11.5%

	質 問 内 容	東京都	青梅市
社 会	世の中のできごとを知ることが好きだから	49.3%	45.9%
	社会の授業での先生の教え方がていねいだから	46.5%	44.7%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	42.0%	41.0%
	出された宿題をきちんとやっているから	38.0%	35.6%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	38.1%	33.7%
	実際に体験したり、専門家の人の話を聞いたりする授業があるから	29.7%	19.5%
	分からないときには自分で調べるから	23.3%	26.3%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	17.9%	21.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.5%	21.7%
	塾や家庭で教えてもらっているから	33.8%	15.6%

	質 問 内 容	東京都	青梅市
算 数	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	65.5%	66.0%
	算数の授業での先生の教え方がていねいだから	47.8%	44.2%
	出された宿題をきちんとやっているから	47.9%	47.3%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	43.3%	40.0%

	コースに別れた少人数の学習があるから	68.9%	52.3%
	ものを使ったり、実際に体験したりする授業が多いから	41.5%	36.0%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	37.4%	37.0%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	26.0%	27.2%
	塾や家庭で教えてもらっているから	45.2%	29.6%
	分からないときには学校の先生に聞くから	24.4%	26.5%
	分からないときには自分で調べるから	16.1%	16.2%

	質問内容	東京都	青梅市
理科	観察したり、実験したりする授業が多いから	79.6%	75.9%
	自分で予想し、それを確かめる授業が多いから	66.9%	63.1%
	理科の授業での先生の教え方がていねいだから	44.8%	45.4%
	観察や実験をした後に、じっくりと考える授業が多いから	42.2%	41.5%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	36.3%	38.5%
	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	34.5%	33.6%
	出された宿題をきちんとやっているから	33.8%	29.6%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.0%	20.7%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	15.5%	15.7%
	分からないときには自分で調べるから	17.5%	16.0%
	塾や家庭で教えてもらっているから	30.6%	15.9%

いずれの教科等においても授業が分かる要因として比較的多く選ばれているものは、例えば次のとおりである。

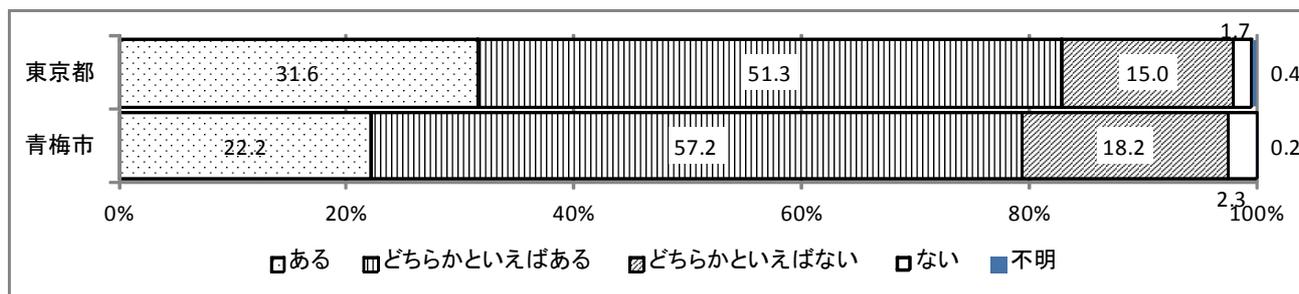
- |                |   |
|----------------|---|
| ■学習方法等に関するもの   | 「自分で調べたり、考えたり、体験したり、観察・実験したりする授業」<br>「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業」<br>「自分で考え、考えたことを発表する授業」 |
| ■児童の学習姿勢に関するもの | 「宿題をきちんとやる」<br>「分からないときには、先生に聞いたり自分で調べたりする」   |
| ■教師の姿勢に関するもの   | 「先生の教え方がていねい」   |

また、教科等ごとに見ると、次のような教科等の特性に関するものが要因として多く選ばれている。※( )内は東京都の数値

- |     |                        |              |                  |
|-----|------------------------|--------------|------------------|
| ◆国語 | 「読書が好きだから」             | 45.1%(49.7%) | <東京都より－4.6ポイント>  |
| ◆社会 | 「世の中のできごとを知ることが好きだから」  | 45.9%(49.3%) | <東京都より－3.4ポイント>  |
| ◆算数 | 「コースに別れた少人数の学習があるから」   | 52.3%(68.9%) | <東京都より－16.6ポイント> |
|     | 「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」 | 66.0%(65.5%) | <東京都より＋0.5ポイント>  |
| ◆理科 | 「観察したり、実験したりする授業が多いから」 | 75.9%(79.6%) | <東京都より－3.7ポイント>  |

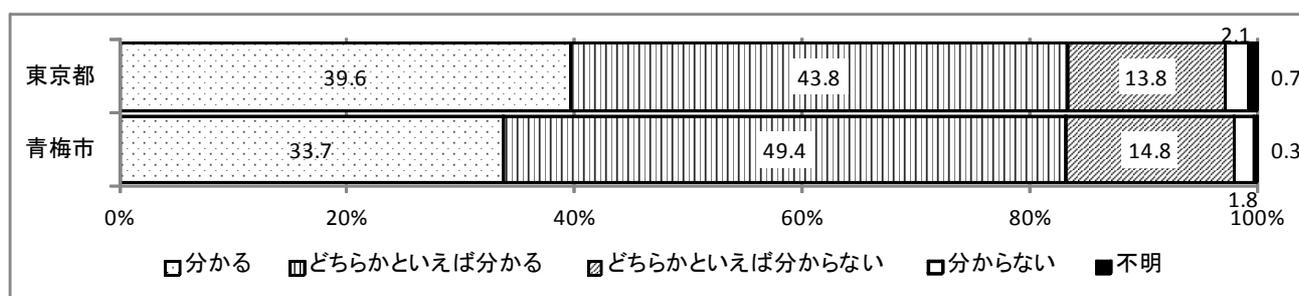
## (2) 算数の学習について

### ① 前の学年までの算数の学習内容を理解している自信がありますか。



「前の学年までの算数の学習内容を理解している自信がありますか。」という質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は、79.4%(82.9%)で、東京都より3.5ポイント下回っている。※( )内は東京都の数値

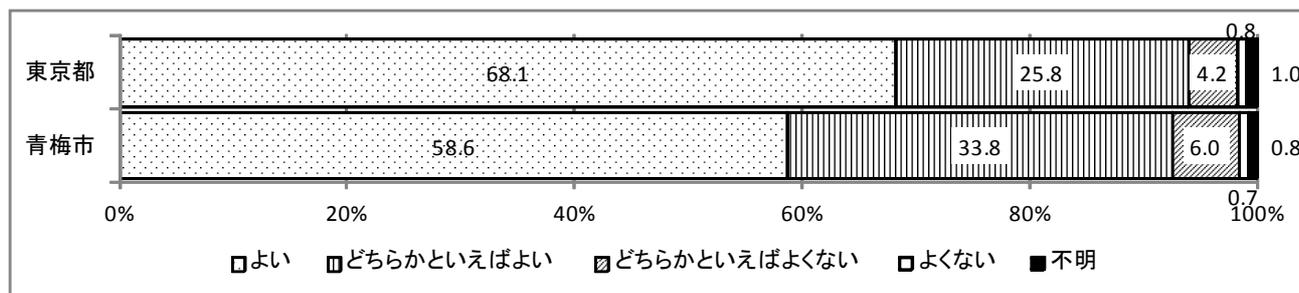
### ② その日に受けた算数の授業の内容について、家に帰って何を学習すればよいか分かっていますか。



その日に受けた算数の授業について、家に帰って何を学習すればよいか分かっていると回答した児童ほど、「どちらかといえば分からない」「分からない」と回答した児童よりも平均正答率が高い。児童に対して、家庭で何を学習すればよいのかを具体的に指示することが、正答率の向上につながるものとする。

青梅市においては、「分かる」「どちらかといえば分かる」とお回答した児童の割合は83.1%(83.4%)である。※( )内は東京都の数値

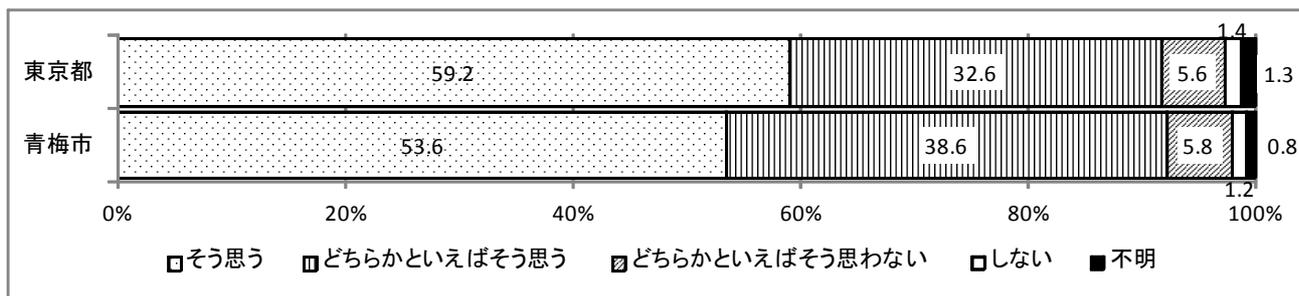
### ③ 算数において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることについて、どのように思いますか。



算数において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることについてどのように思うかという質問に対して、「よい」「どちらかといえばよい」と回答した児童の割合は、92.4%(93.9%)である。このことから、児童は習熟の程度に応じた授業を受けることについて

て概ね肯定的に捉えているものと考えられる。 ※( )内は東京都の数値

④ 算数において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることで、学力がつくようになると思いますか。

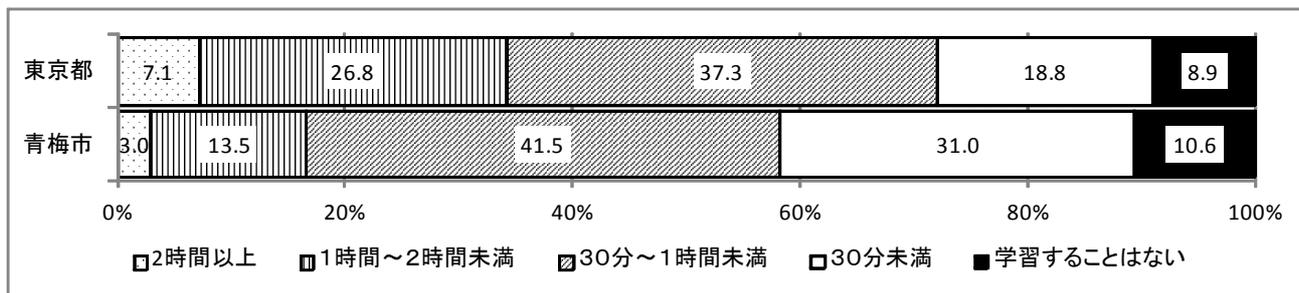


算数において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることで、学力がつくようになると思うかという質問に対して「そう思う。」「どちらかといえばそう思う。」と回答した児童の割合は、92.2%(91.8%)で、東京都より0.4ポイント上回っている。

多くの児童が、習熟の程度に応じた授業を受けることで学力がつくようになると思っていると捉えられる。 ※( )内は東京都の数値

(4) 学校以外での学習について

① 学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。(塾や習い事は含めません。)

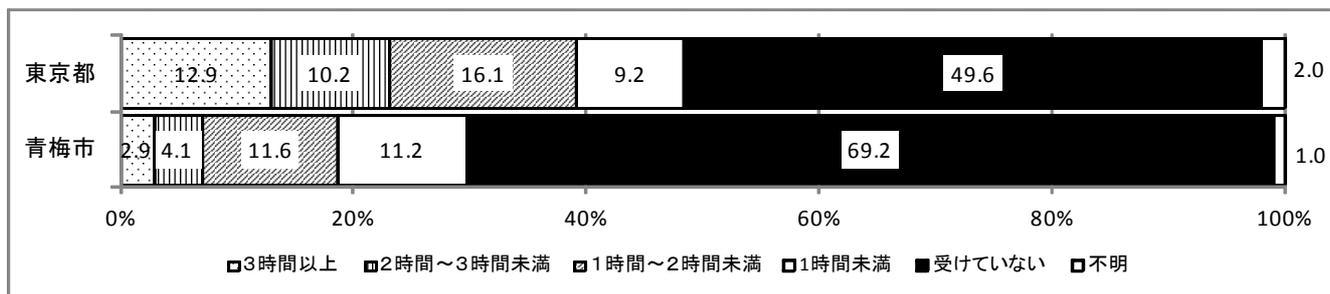


学習時間と平均正答率との関係	平均正答率 (%) ( )内は東京都の数値			
	国語	社会	算数	理科
2時間以上	78.0(82.6)	73.3(80.0)	62.8(77.4)	68.7(75.3)
1時間～2時間未満	76.4(80.1)	72.4(76.3)	61.6(69.8)	67.8(71.5)
30分～1時間未満	72.5(75.3)	68.3(71.6)	55.3(62.8)	63.2(66.5)
30分未満	64.1(69.9)	63.0(65.6)	52.6(54.9)	57.7(60.3)
学習をすることはない	59.6(64.4)	56.5(59.0)	50.4(49.4)	52.6(55.5)

学校以外で、毎日およそどのくらいの学習をするかという質問に対して、「学習をしている」と回答した児童の割合は89%(90%)で東京都とほぼ同じ数値を示している。

平均正答率との関連で見ると、1日に「2時間以上」学習をする児童の平均正答率は、4教科全てにおいて最も高くなっており、学校以外の学習時間が長いほど、平均正答率が高くなっている。 ※( )内は東京都の数値

② 塾の先生や家庭教師の先生による学習を受ける時間は、1日当たりどのくらいですか。



通塾時間と平均正答率との関係	平均正答率 (%) ( )内は東京都の数値			
	国語	社会	算数	理科
2時間以上	74.3(77.2)	63.5(68.6)	60.7(67.9)	65.4(65.9)
1時間～2時間未満	69.3(76.7)	66.4(69.0)	62.5(69.6)	64.2(66.4)
30分～1時間未満	68.0(73.4)	61.6(65.7)	58.5(66.0)	61.7(64.0)
30分未満	62.8(68.0)	57.3(59.5)	55.4(59.8)	56.9(58.2)
読書をすることはない	57.0(61.7)	50.9(53.8)	48.2(53.0)	50.7(52.3)

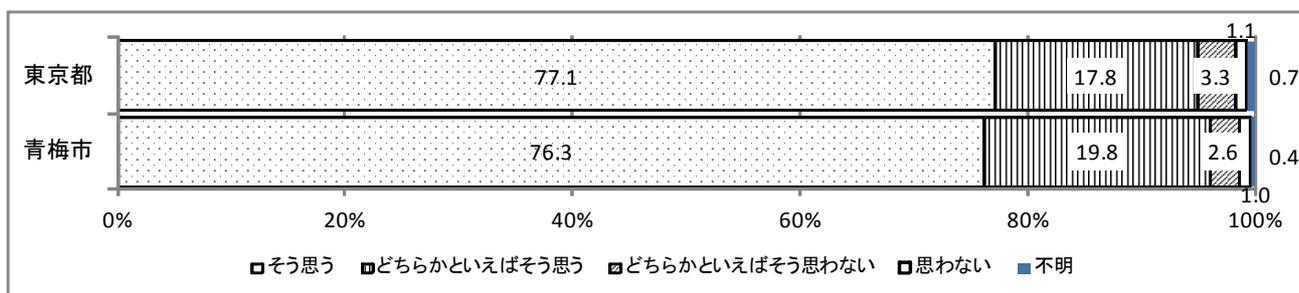
塾の先生や家庭教師の先生による学習を、1日当たりどのくらい学習をするかという質問に対して、「学習を受けている」と回答した児童の割合は29.8%（48.4%）である。

※( )内は東京都の数値

平均正答率との関連で見ると、1日に「3時間以上」学習をする児童の平均正答率は、4教科全てにおいて最も高くなっており、学校以外での学習時間が長いほど、平均正答率が高くなっている。

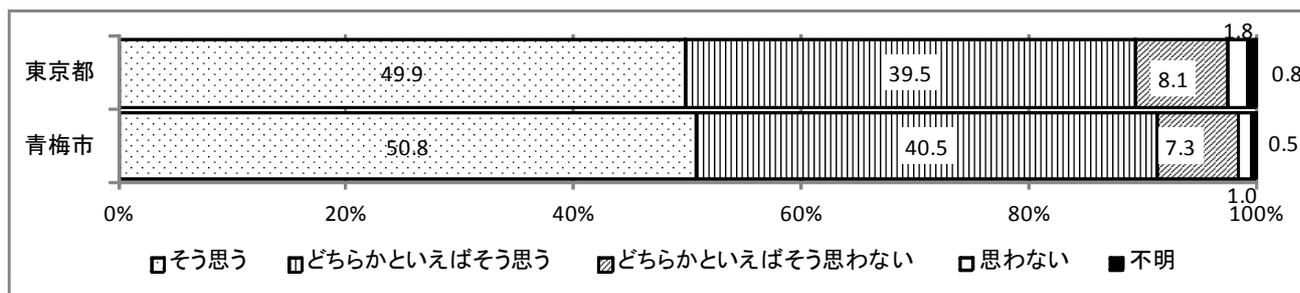
## (5) 理科に関する意識について

① 理科の授業で、もっと観察・実験をしたいと思いませんか。



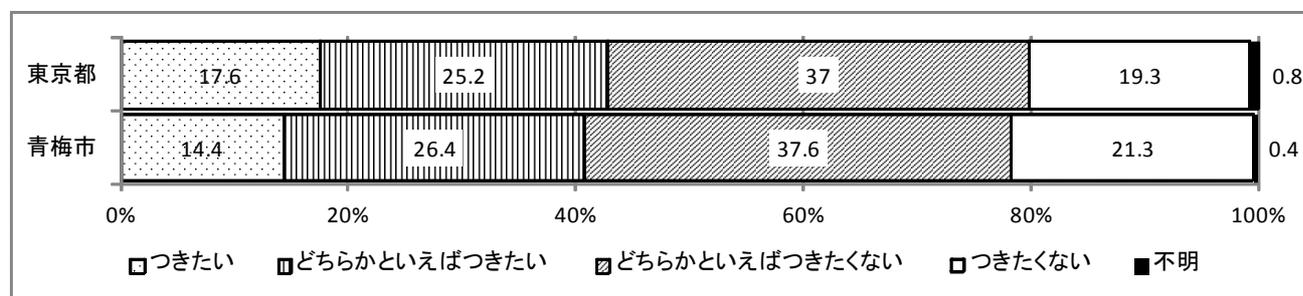
理科の授業で、もっと観察・実験をしたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、96.1%（94.9%）であり、東京都より1.2ポイント上回っている。 ※( )内は東京都の数値

② 理科の授業で学習したことは、ふだんの生活で役立つと思いますか。



理科の授業で学習したことは、普段の生活で役立つと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、91.3%(89.4%)で、東京都より1.9ポイント上回っている。 ※( )内は東京都の数値

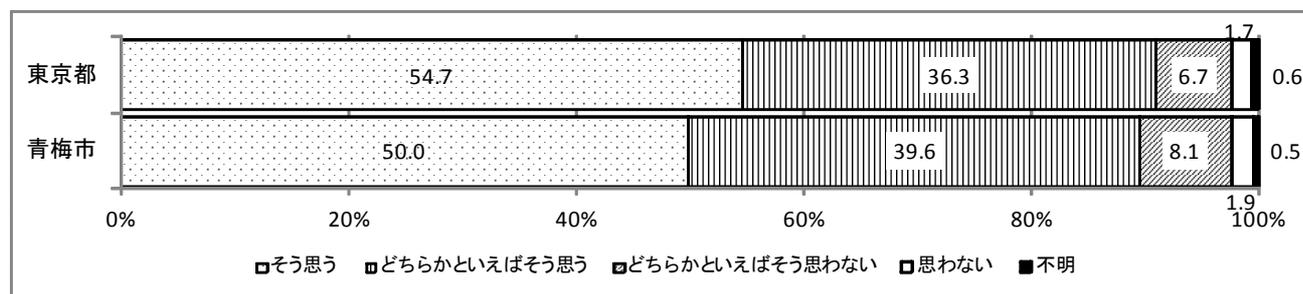
③ 将来、「理科や算数、科学技術に関する仕事」につきたいと思いますか。



将来、「理科や算数、科学技術に関する仕事」につきたいかと思うという質問に対して、「つきたい」「どちらかといえばつきたい」と回答した児童の割合は、40.8%(42.8%)である。 ※( )内は東京都の数値

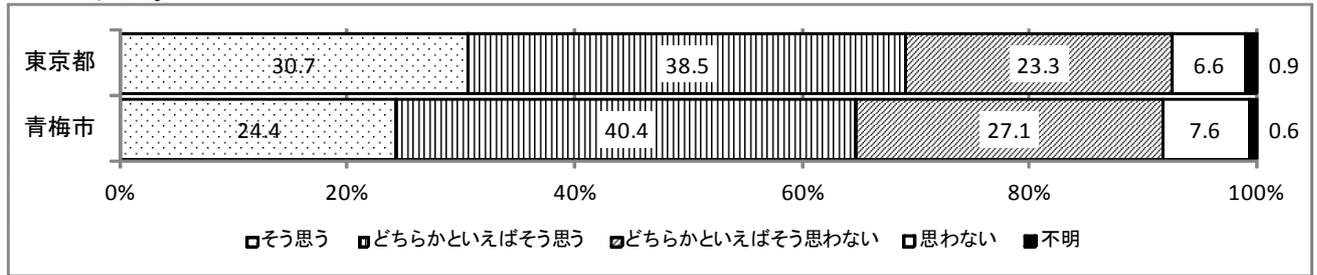
(6) 生活や行動等について

① 自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますか。



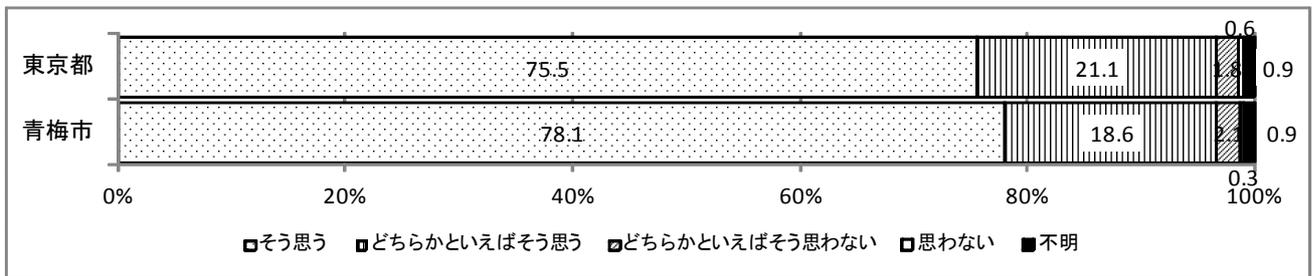
自分の住む地域や社会をよくしたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、89.6%(91%)である。 ※( )内は東京都の数値

② たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたいことがありますか。



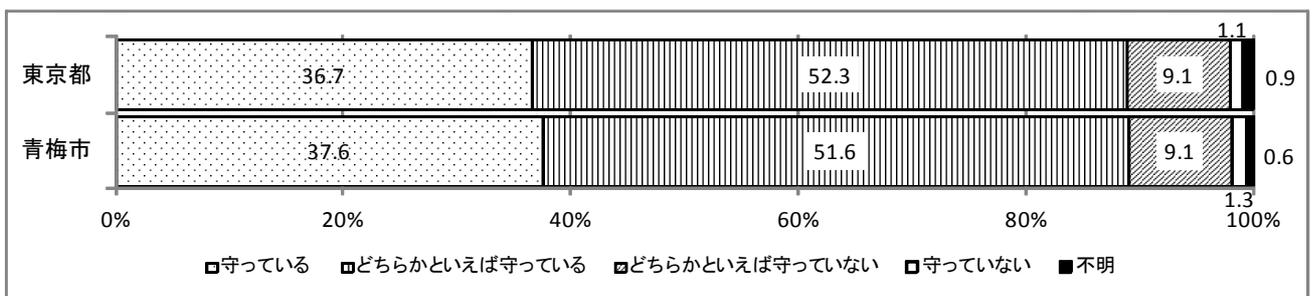
たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがあるかという質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は、64.8%(69.2%)で、東京都より4.4ポイント下回っている。※( )内は東京都の数値

③ 学校のきまりを守ることが大切だと思いますか。



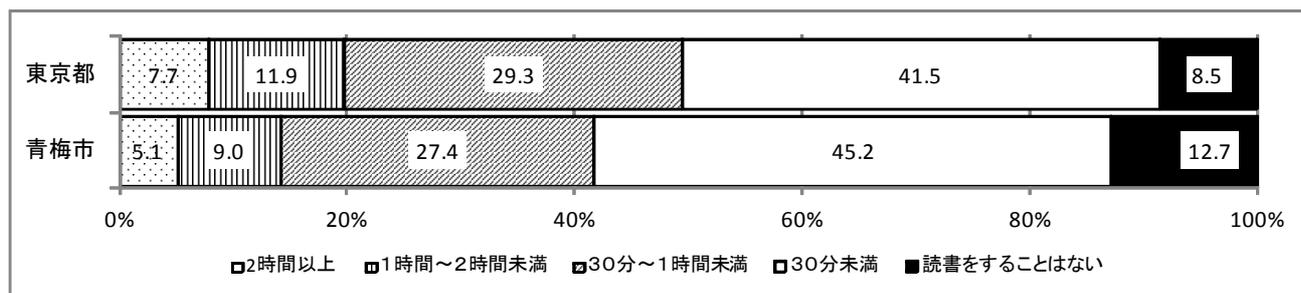
学校の決まりを守ることが大切だと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、96.7%(96.6%)で、東京都より0.1ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

④ 学校のきまりを守っていますか。



学校の決まりを守っているかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は、89.2%(89.0%)で、東京都より0.2ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

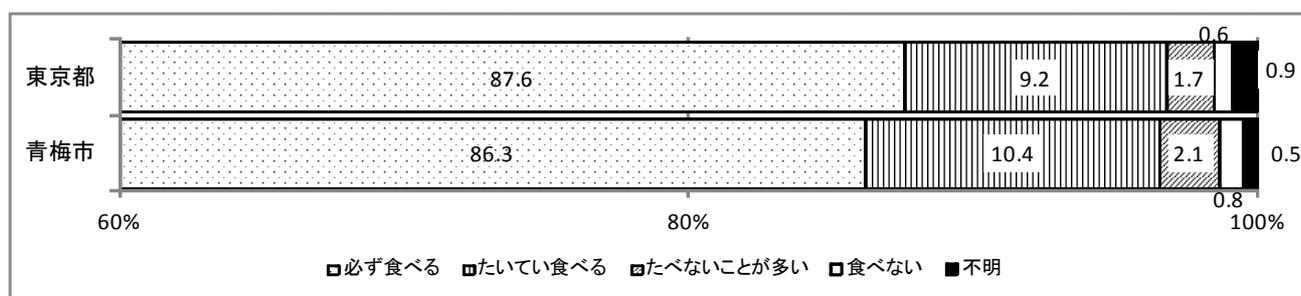
⑤ 読書を、毎日およそどのくらいしますか。



読書時間と 平均正答率との関係	平均正答率 (%) ( )内は東京都の数値			
	国語	社会	算数	理科
2 時間以上	79.0(80.7)	71.6(74.5)	57.9(66.8)	68.2(70.0)
1 時間～2 時間未満	76.1(80.7)	70.5(75.6)	57.2(68.6)	65.7(71.4)
3 0 分～1 時間未満	74.5(78.3)	69.8(74.5)	56.6(66.2)	64.9(69.3)
3 0 分未満	66.4(71.7)	65.0(68.4)	55.0(59.8)	59.1(63.3)
読書をするのではない	59.4(62.8)	57.3(59.1)	48.8(49.6)	54.8(54.5)

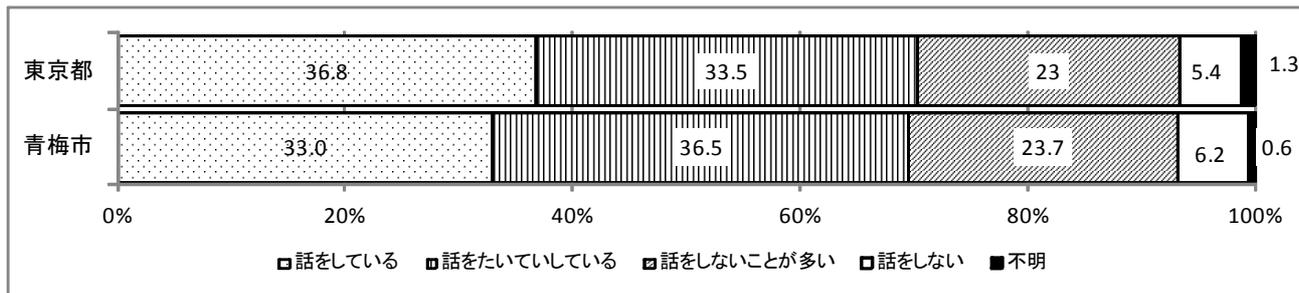
読書を、毎日およそどのくらいするかという質問に対して、「読書をしている」と回答した児童の割合は、82%(90.4%)で、東京都より 8.4 ポイント下回っている。平均正答率との関連で見ると、1日に「1時間～2時間未満」の読書をする児童の平均正答率は、4教科全てにおいて最も高くなっている。※( )内は東京都の数値

⑥ 学校に行く前に朝食を食べますか。



学校に行く前に朝食を食べるかという質問に対して、「必ず食べる」「たいてい食べる」と回答した児童の割合は 96.7% (96.8%) で、東京都とほぼ同じ数値である。※( )内は東京都の数値

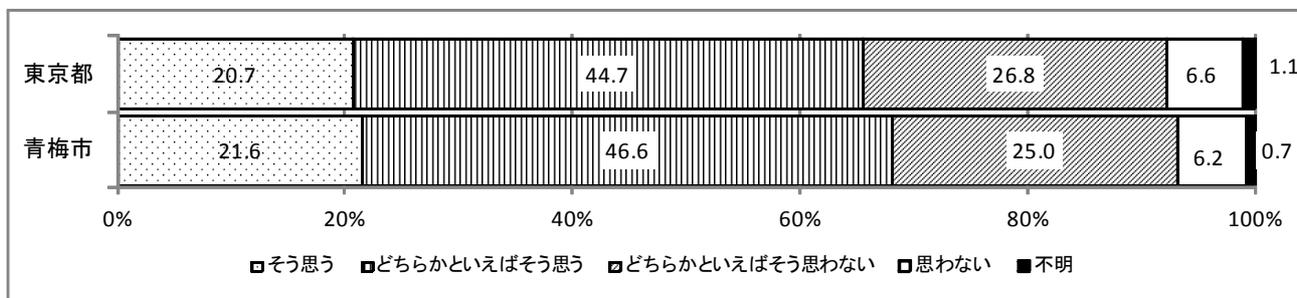
⑦ 家の人と、学校や社会の出来事について話をしますか。



家の人と、学校や社会の出来事について話をしているかという質問に対して、「話をしている」「話をたいていしている」と回答した児童の割合は69.5%（70.3%）であった。

※( )内は東京都の数値

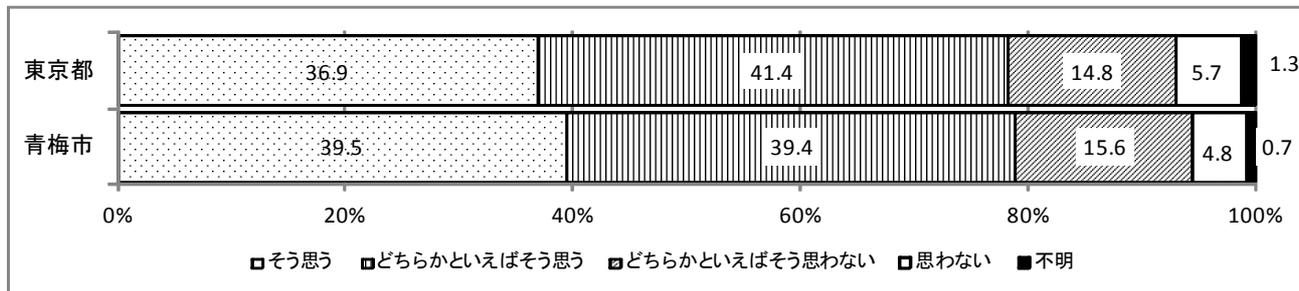
⑧ 自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。



自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は68.2%（65.4%）であった。東京都より2.8ポイント上回っている。

※( )内は東京都の数値

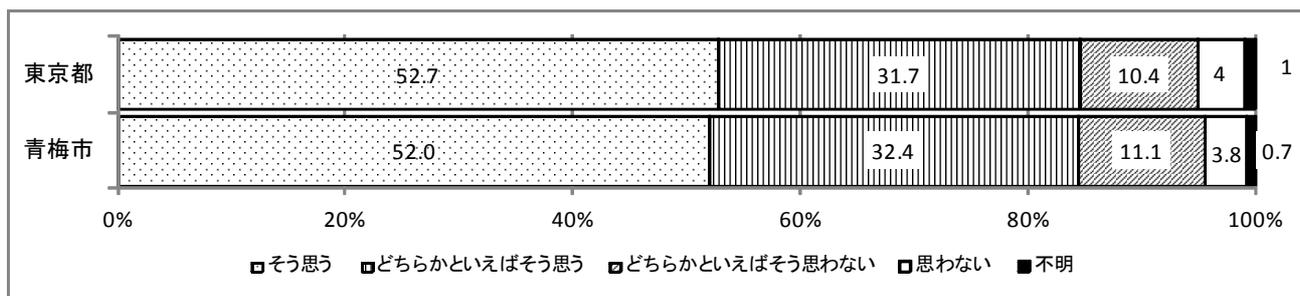
⑨ 自分のことを大切な存在だと感じていますか。



自分のことを大切な存在だと感じているかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は78.9%（78.3%）であった。

※( )内は東京都の数値

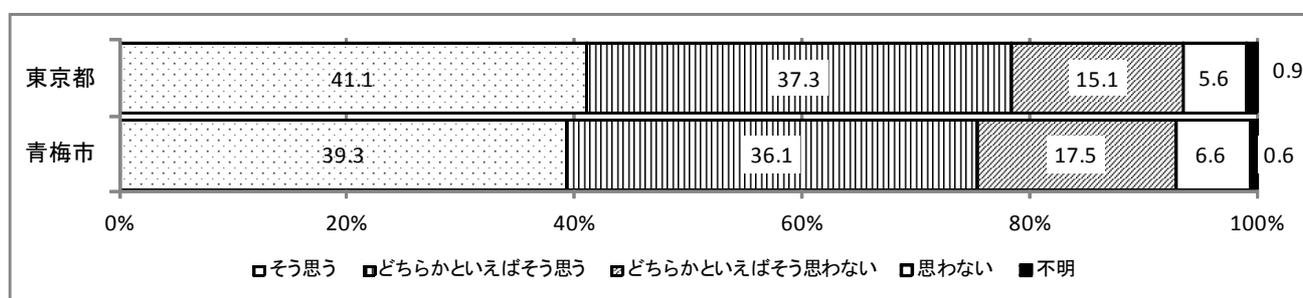
⑩ 自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思いますか。



自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は84.4%（84.4%）であった。

※( )内は東京都の数値

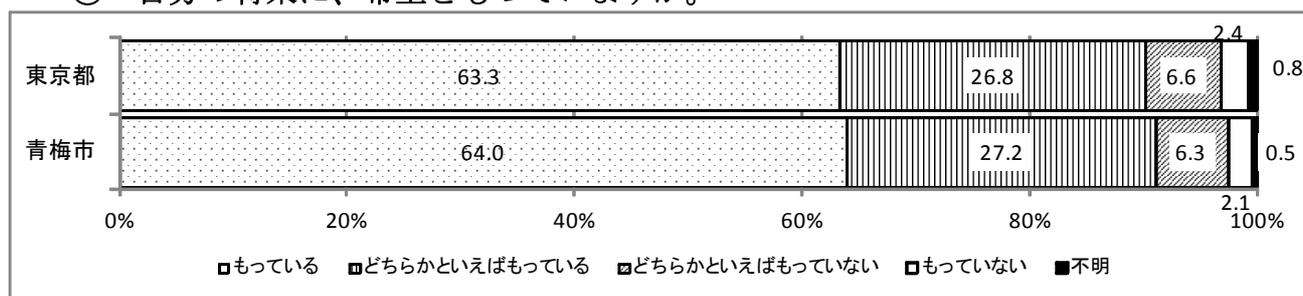
⑪ 将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思いますか。



将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は75.4%（78.4%）であった。

※( )内は東京都の数値

⑫ 自分の将来に、希望をもっていますか。



将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は91.2%（90.1%）であった。東京都より1.1ポイント上回っている。 ※( )内は東京都の数値

### 3 指導の改善に向けて

本調査の結果から、確かな学力の向上を図るための指導上の改善点について提言する。

#### (1) 授業改善のための視点

##### ① 「できない」「分からない」を「できる」「分かる」ようにするための指導の徹底

本調査の結果から、国語、社会、算数、理科のどの教科においても、授業が「よく分かる」と感じている児童ほど、平均正答率が高いことが分かる。授業が「分かる」と回答した児童と「ほとんど分からない」と回答した児童の平均正答率の差は、国語が29.4(33.3)ポイント、社会が28.1(27.3)ポイント、算数が17(37.6)ポイント、理科が30(25.3)ポイントである。これらの結果から、「できない」「分からない」箇所があれば、繰り返しの指導や前の学年の内容に立ち戻った指導を通して「できる」「分かる」ようにする指導を徹底することが求められる。

##### ② 取り組むべき内容を明確にした復習の徹底

本調査の結果から、「その日に受けた算数の授業の内容について、家に帰って何を学習すればよいか分かっているか」の質問に対して「分かる」と回答した児童ほど、平均正答率高い傾向にある。したがって、児童に宿題等の課題を提示する際には、日々の授業との関連を十分考慮したものとすることが大切である。また、授業中に行う確認テスト等においても、実施後に各問題に対する復習のポイントや立ち戻るべき学習内容を提示し、放課後等の補習や家庭学習を活用しながら、間違えてしまった問題をできるようにさせることが大切である。

##### ③ 「読み解く力」を高める指導の工夫

どの教科においても、「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の平均正答率が低い傾向にある。言語活動を充実させ、思考力を育む授業改善が大切である。

##### ④ 学校と家庭との連携を図った指導の充実

調査結果から、基本的な生活習慣、規範意識、忍耐力、自尊感情、奉仕の精神、社会貢献に関する質問に対して「している(そう思う)」と回答した児童ほど、平均正答率が高い傾向にある。また、家庭での学習習慣が見に付いている児童ほど平均正答率が高い傾向にある。学力向上のために、家庭との連携をより一層深め、児童一人一人の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう指導していくことが大切である。

## Ⅱ 中学校における学習に関する意識調査について

### 1 調査の概要

本意識調査は、次の7点の事項について第2学年の生徒に質問した。

(1) 各教科の内容の理解の程度について

(2) 各教科の内容の分かるための要因について

上記(1)で、「授業がよく分かる」、または「どちらかといえば分かる」と回答した生徒を対象に質問した。

■学習方法 ■教員の姿勢 ■学習者の姿勢 ■その他

(3) 数学や英語の学習について

(4) 学校以外での学習について

(5) 理科に関する意識について

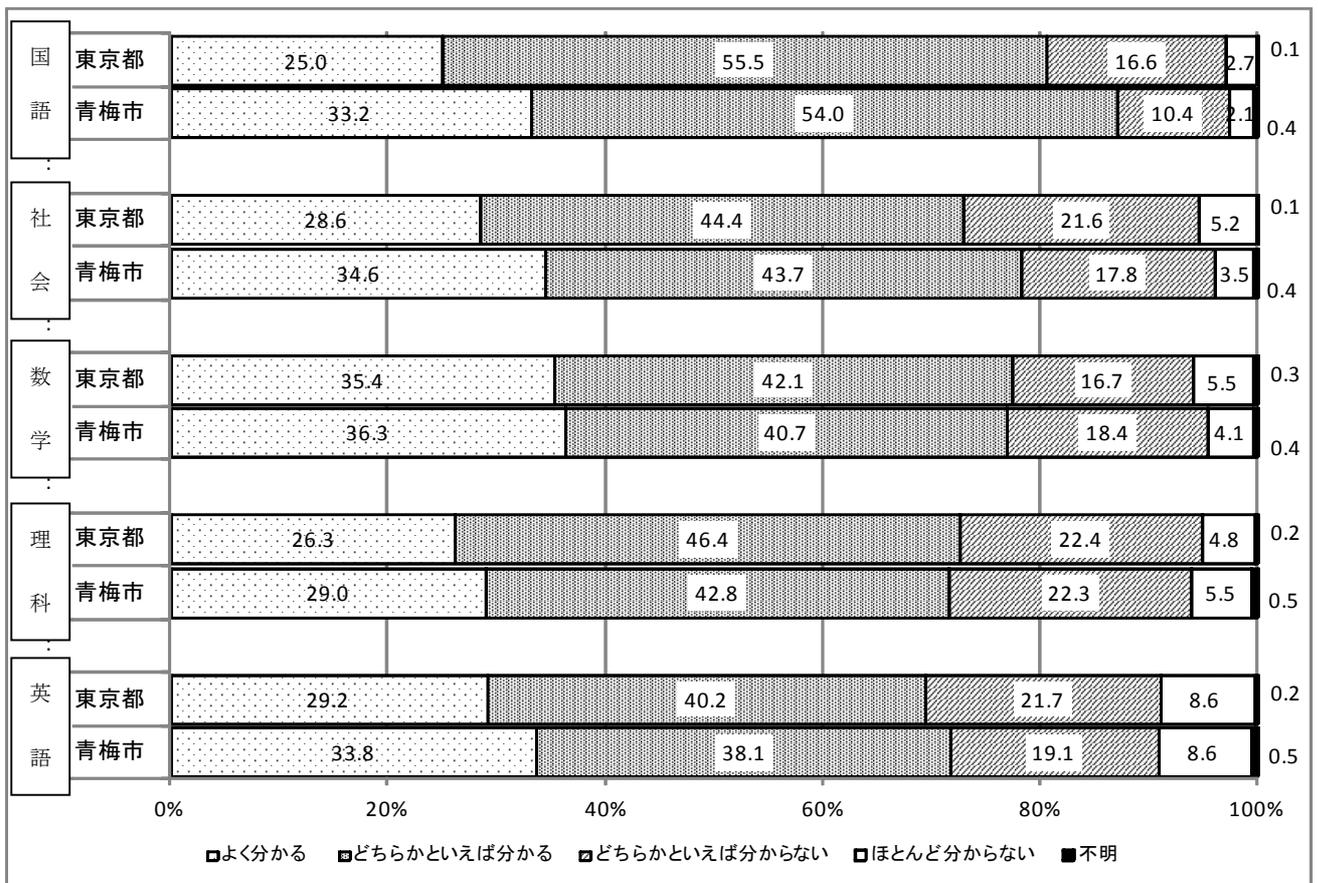
(6) 英語に関する意識について

(7) 生活や行動等について

### 2 調査結果の概要

#### (1) 各教科の内容の理解の程度について

① 授業の内容はどのくらい分かりますか。



授業の楽しさと平均 正答率との関係	平均正答率 (%) ( )内は東京都の数値				
	国語	社会	数学	理科	英語
よく分かる	61.7(68.3)	61.1(66.9)	56.9(65.1)	54.6(62.9)	62.2(68.8)
どちらかといえば分かる	55.6(60.5)	53.6(58.2)	46.7(53.7)	47.0(52.6)	49.9(55.8)
どちらかといえば分からない	46.3(49.8)	45.7(49.4)	33.3(40.3)	41.1(43.8)	37.9(43.5)
ほとんど分からない	38.0(44.4)	32.4(43.4)	21.3(30.7)	37.4(39.0)	26.3(32.9)

平成26年度の第2学年において、授業の内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した生徒の割合は、国語が87.2%(80.5%)、社会が78.3%(73.0%)、数学が77%(77.5%)、理科が71.8%(72.7%)、英語が71.9%(69.4%)である。※( )内は東京都の数値

平均正答率との関連で見ると、調査を実施した全ての教科において、授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した生徒の平均正答率は、「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した生徒の平均正答率よりも高くなっている。

## (2) 授業の内容が分かる要因について

次の表は、授業の内容が分かる要因について、生徒が教科等ごとに回答した割合が10%以上のもの（青梅市、東京都どちらか）を示したものである。

（数字は回答率、複数回答）

	質問内容	東京都	青梅市
国 語	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	29.4%	35.5%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	30.2%	36.2%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	18.9%	23.3%
	国語の先生の教え方がていねいだから	57.7%	64.6%
	国語を教えてくれる先生が好きだから	16.4%	15.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	14.3%	17.4%
	分からないときには自分で調べるから	12.6%	13.0%
	塾や家庭で教えてもらっているから	12.6%	11.6%
	自分で予習や復習をしているから	14.5%	14.1%

	質問内容	東京都	青梅市
社 会	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	20.7%	29.3%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	19.9%	25.9%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	22.4%	23.8%
	社会の先生の教え方がていねいだから	59.4%	64.2%
	社会を教えてくれる先生が好きだから	20.1%	18.2%
	世の中のできごとを知ることが好きだから	38.3%	37.9%
	分からないときには学校の先生に聞くから	14.1%	15.9%
	分からないときには自分で調べるから	18.5%	17.9%
	塾や家庭で教えてもらっているから	13.5%	7.9%
		自分で予習や復習をしているから	18.8%

	質 問 内 容	東京都	青梅市
数 学	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	22.7%	30.3%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	15.7%	16.8%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	36.1%	38.7%
	理解の程度などによるコース別の授業があるから	34.4%	15.3%
	数学の先生の教え方がていねいだから	49.9%	53.8%
	数学を教えてくれる先生が好きだから	13.1%	15.5%
	数学の問題にはいろいろな解き方があるから	41.3%	42.3%
	分からないときには学校の先生に聞くから	22.5%	24.6%
	分からないときには自分で調べるから	12.0%	13.6%
	塾や家庭で教えてもらっているから	42.2%	29.8%
	自分で予習や復習をしているから	19.1%	20.9%

	質 問 内 容	東京都	青梅市
理 科	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	18.5%	19.8%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	20.4%	20.4%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	22.6%	25.4%
	観察したり、実験したりする授業が多いから	64.3%	60.9%
	観察や実験をした後に、じっくりと考える時間が多いから	35.9%	36.4%
	理科の先生の教え方がていねいだから	53.2%	49.5%
	理科を教えてくれる先生が好きだから	18.8%	14.7%
	分からないときには学校の先生に聞くから	17.9%	18.3%
	分からないときには自分で調べるから	13.8%	14.9%
	塾や家庭で教えてもらっているから	14.3%	7.2%
	自分で予習や復習をしているから	16.3%	16.6%

	質 問 内 容	東京都	青梅市
英 語	自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから	22.7%	24.5%
	お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから	19.3%	20.1%
	授業中にくり返し学習する時間があるから	32.2%	36.6%
	理解の程度などによるコース別の授業があるから	18.3%	3.6%
	授業で外国語指導助手（ALT）の先生が教えてくれるから	37.8%	38.8%
	英語の先生の教え方がていねいだから	49.6%	48.7%
	英語を教えてくれる先生が好きだから	15.5%	17.8%
	分からないときには学校の先生に聞くから	20.3%	23.8%
	分からないときには自分で調べるから	16.0%	16.8%
	塾や家庭で教えてもらっているから	44.0%	33.3%
	自分で予習や復習をしているから	22.0%	23.9%

いずれの教科等においても授業が分かる要因として比較的多く選ばれているものは、例えば次のとおりである。

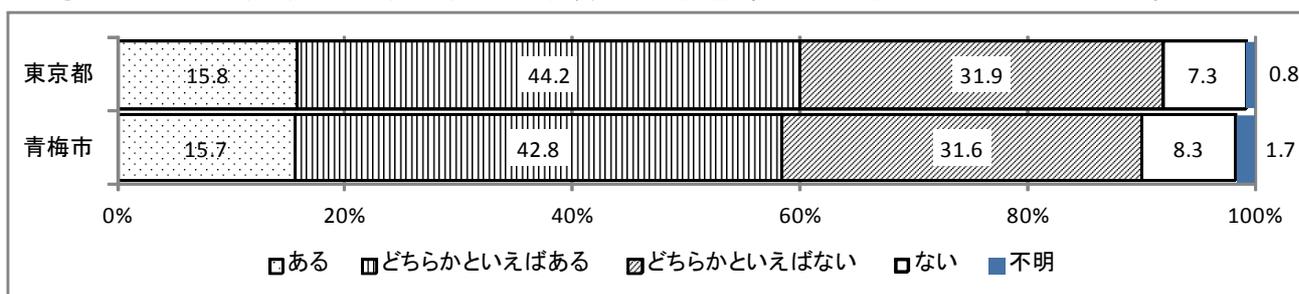
- 学習方法等に関するもの 「自分で調べたり、考えたり、体験したり、観察・実験したりする授業」  
「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業」  
「自分で考え、考えたことを発表する授業」「くり返し学習する」
- 生徒の学習姿勢に関するもの 「自分で予習や復習をする」「分からないときには先生に聞く」
- 教師の姿勢に関するもの 「先生の教え方がいい」

また、教科等ごとに見ると、次のような教科等の特性に関するものが要因として多く選ばれている。

- ◆ 国語 「読書が好きだから」 29.2%(30.5%) <東京都より-1.3ポイント>
- ◆ 社会 「世の中のできごとを知ることが好きだから」 37.9%(38.3%) <東京都より-0.4ポイント>
- ◆ 数学 「数学の問題にはいろいろな解き方があるから」 42.3%(41.3%) <東京都より+1.0ポイント>
- ◆ 理科 「観察したり、実験したりする授業が多いから」 60.9%(64.3%) <東京都より-3.4ポイント>
- ◆ 英語 「授業で外国語指導助手(ALT)の先生が教えてくれるから」 38.8%(37.8%) <東京都より+1.0ポイント>

### (3) 数学や英語の学習について

#### ① 小学校の算数や1年の数学の学習内容を理解している自信がありますか。

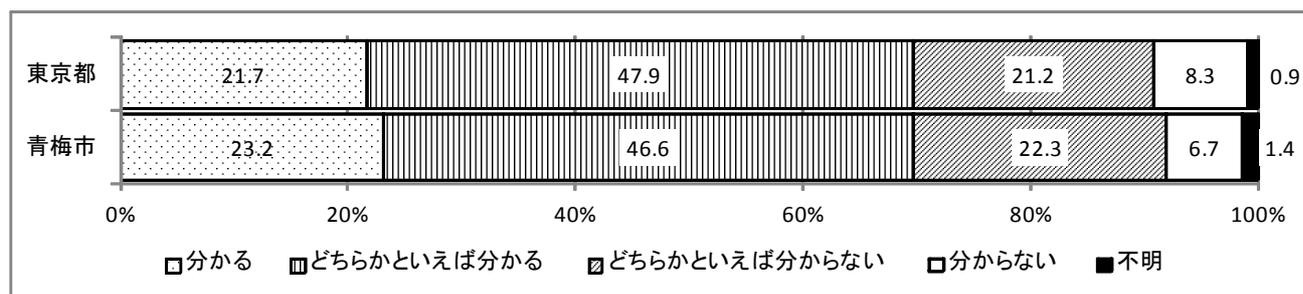


「小学校の算数や1年の数学の学習内容を理解している自信がありますか。」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は 58.5% (60%) であり、「ある」と回答した生徒の割合は、15.7% (15.8%) と低くなっている。※( )内は東京都の数値

数学の学習内容を理解している自信の度合いと平均正答率	数学の平均正答率 (%)
ある	61.6 (69.0)
どちらかといえばある	51.0 (57.8)
どちらかといえばない	38.5 (45.9)
ない	31.6 (37.5)

平均正答率との関連で見ると、「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の平均正答率は「どちらかといえばない」「ない」と答えた生徒の平均正答率よりも高く、その差が顕著となっている。

② その日に受けた数学の授業の内容について、家に帰って何を学習すればよいか分かっていきますか。

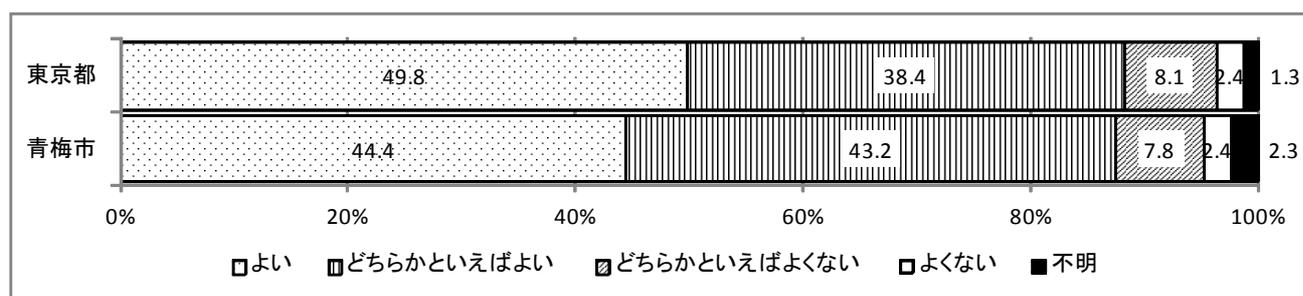


その日に受けた数学の授業の内容について、家に帰って何を学習すればよいか分かっていきますかという質問に対して、「分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した生徒の割合は、69.8%(69.6%)である。※( )内は東京都の数値

家で学習することが明確であることと平均正答率	数学の平均正答率 (%)
分かる	52.9 (61.3)
どちらかといえば分かる	49.2 (55.1)
どちらかといえば分からない	40.3 (49.1)
分からない	33.8 (44.6)

平均正答率の関連で見ると、「分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた生徒の平均正答率は、「どちらかといえば分からない」「分からない」と答えた生徒の平均正答率よりも高くなっている。学習すべきことが不明確であることが、学習内容が十分に定着していないことに結びついていると考えられる。

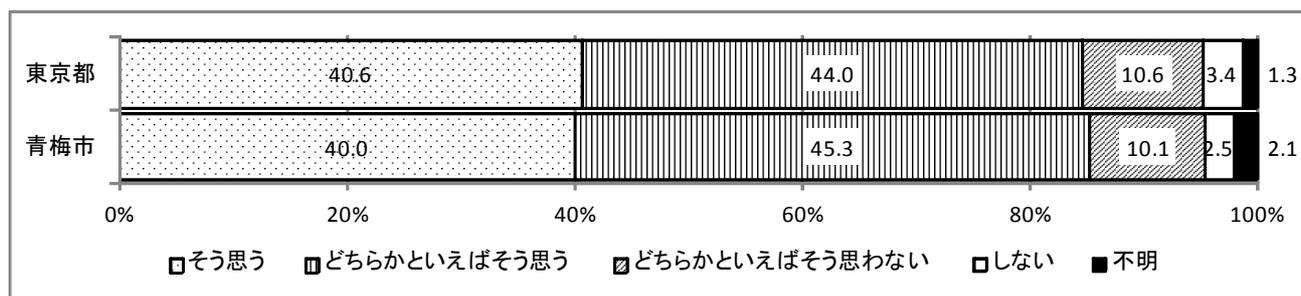
③ 数学や英語において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることについて、そのように思いますか。



数学や英語において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることについて、そのように思いますかという質問に対して、「よい」「どちらかといえばよい」と答えた生徒の割合は、87.6%(88.2%)である。※( )内は東京都の数値

習熟度別指導に対する意識と平均正答率の関係	平均正答率 (%)	
	数 学	英 語
そう思う	52.2 (58.6)	54.2 (59.7)
どちらかといえばそう思う	44.6 (51.4)	47.8 (51.8)
どちらかといえばそう思わない	35.2 (44.1)	40.1 (44.3)
思わない	32.5 (48.1)	40.5 (46.9)

④ 数学や英語において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることで、学力がつくようになると思いますか。



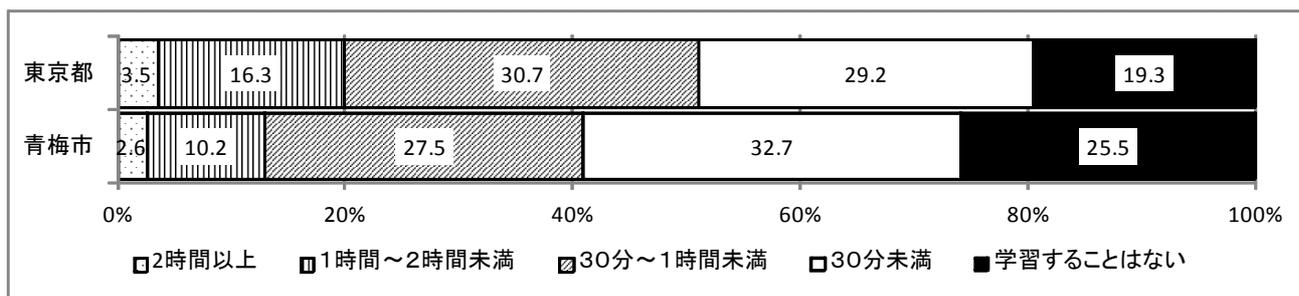
数学や英語において、自分の学力に応じたコースに分かれた授業を受けることで、学力がつくようになると思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は、85.3%(84.6%)である。※( )内は東京都の数値

習熟度別指導に対する意識と 平均正答率の関係	平均正答率 (%)	
	数 学	英 語
そう思う	52.7 (59.5)	54.5 (60.3)
どちらかといえばそう思う	44.8 (52.0)	47.8 (52.6)
どちらかといえばそう思わない	36.9 (46.7)	43.1 (47.7)
思わない	37.8 (48.3)	42.9 (48.5)

習熟の程度に応じて指導方法や教材等を変えるなど、効果的な習熟度別指導を行うことで、正答率の一層の向上につながるものと考えます。

(4) 学校以外での学習について

① 学校以外で、毎日およそどれくらい学習をしますか。(塾や習い事は含めない)

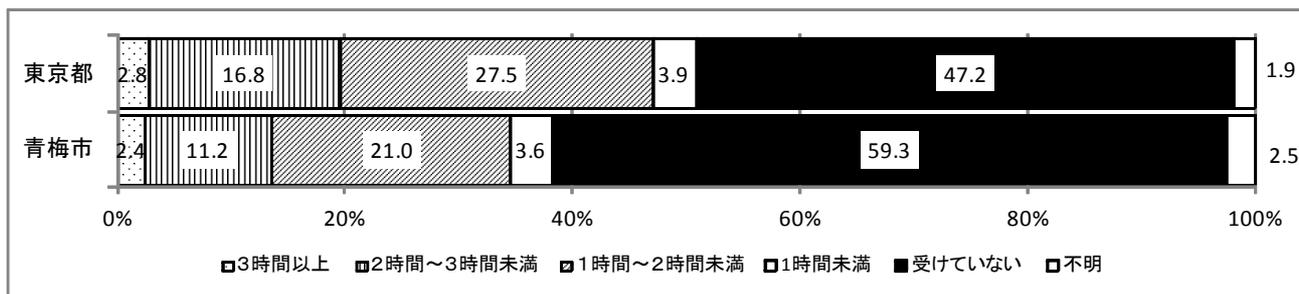


学校以外で、毎日およそどのくらい学習をするかという質問に対して、「学習をしている」と答えた生徒の割合は、73%(79.7%)である。

平均正答率との関連で見ると、「学校で学習した内容を、日常生活に生かしている。」ことについて、「している」「たいていしている」と回答した生徒の平均正答率は、「しないことが多い」「しない」と回答した生徒の平均正答率よりも高くなっている。

※( )内は東京都の数値

② 塾の先生や家庭教師の先生による学習を受ける時間は、1日当たりどのくらいですか。

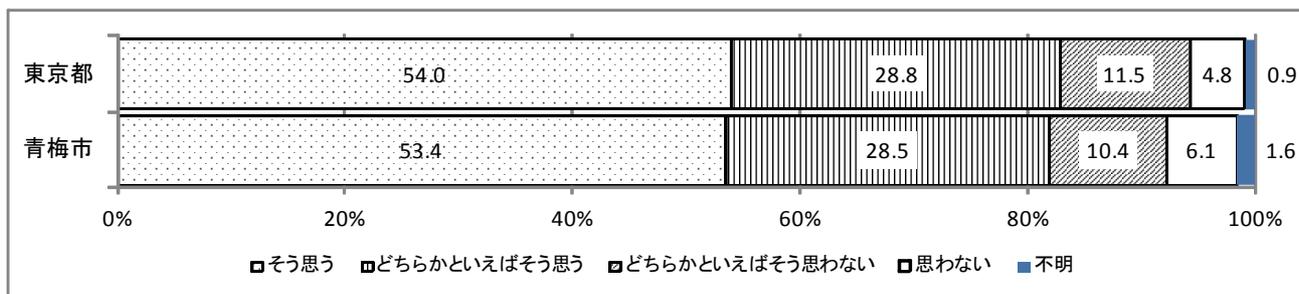


塾の先生や家庭教師の先生による学習を、1日あたりどのくらい学習をするかという質問に対して、「学習を受けている」と回答した生徒の割合は、38.2% (51.0%) である。

※( )内は東京都の数値

### (5) 理科に関する意識について

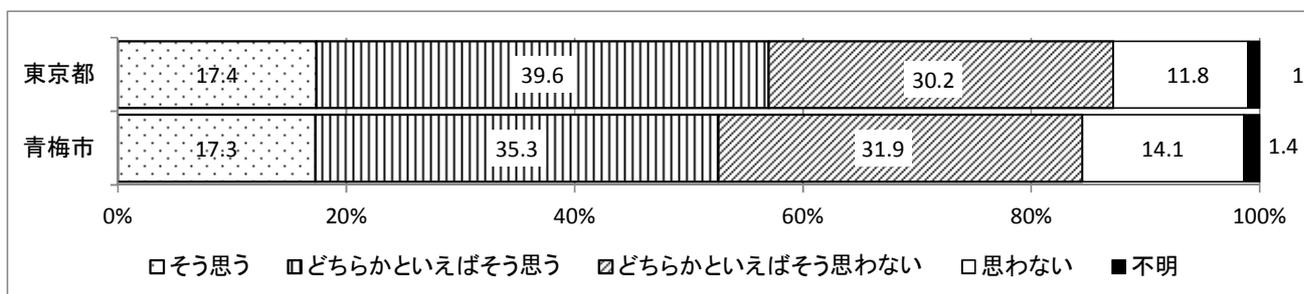
① 理科の授業で、もっと観察・実験をしたいと思いませんか。



理科の授業で、もっと観察・実験したいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は、81.9%(82.8%)である。

※( )内は東京都の数値

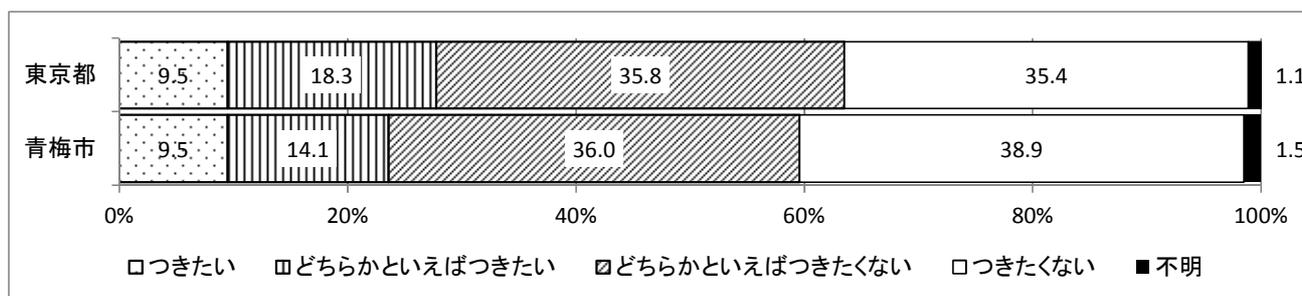
② 理科の授業で学習したことは、普段の生活で役立つと思うか。



理科の授業で学習したことは、普段の生活の中で役立つかという質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は、52.6%(57.0%)である。

※( )内は東京都の数値

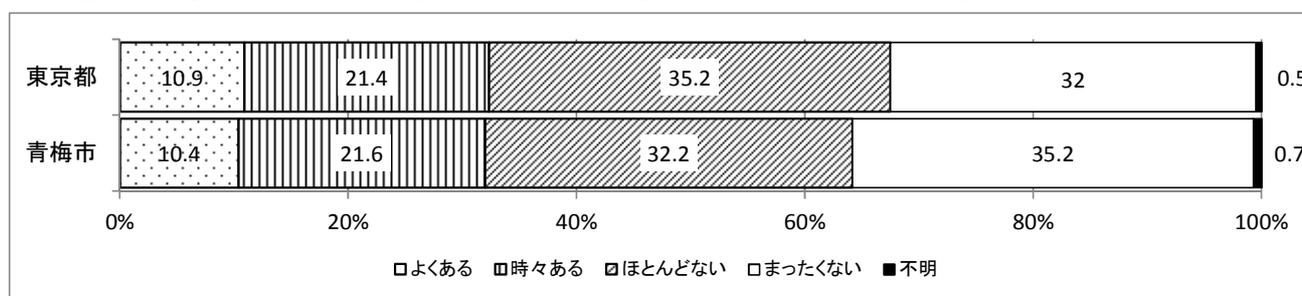
③ 将来、「理科や数学、科学技術に関する仕事」につきたいと思いますか。



将来、「理科や数学、科学技術に関する仕事」につきたいと思うかという質問に対して「つきたい」「どちらかといえばつきたい」と答えた生徒の割合は、23.6%(27.8%)である。  
※( )内は東京都の数値

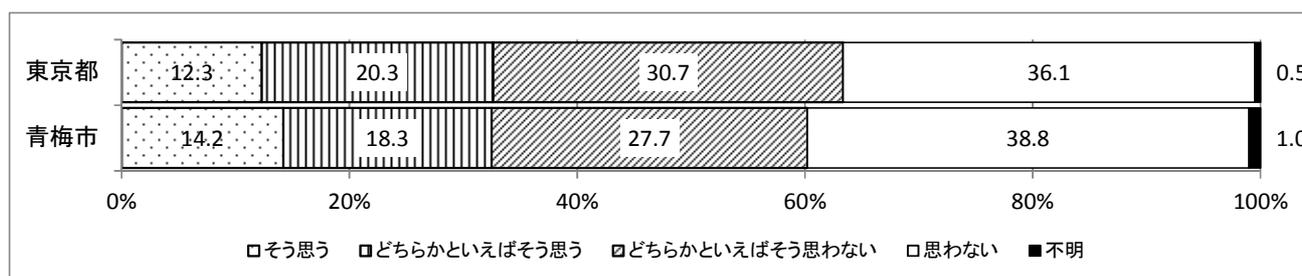
(6) 英語に関する意識調査について

① 学校・塾・習い事以外で、英語を使う機会がありますか。



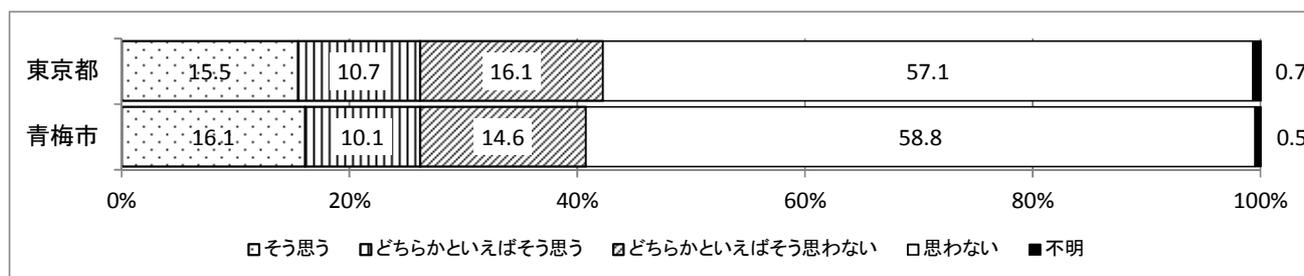
学校・塾・習い事以外で、英語を使う機会があるかという質問に対して、「よくある」「時々ある」と答えた生徒の割合は、32% (32.3%) である。※( )内は東京都の数値

② 学校・塾・習い事以外で、外国の人がいるときに、話しかけてみたいと思いますか。



学校・塾・習い事以外で、外国の人がいるとき、話しかけてみたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は、32.5% (32.6%) である。※( )内は東京都の数値

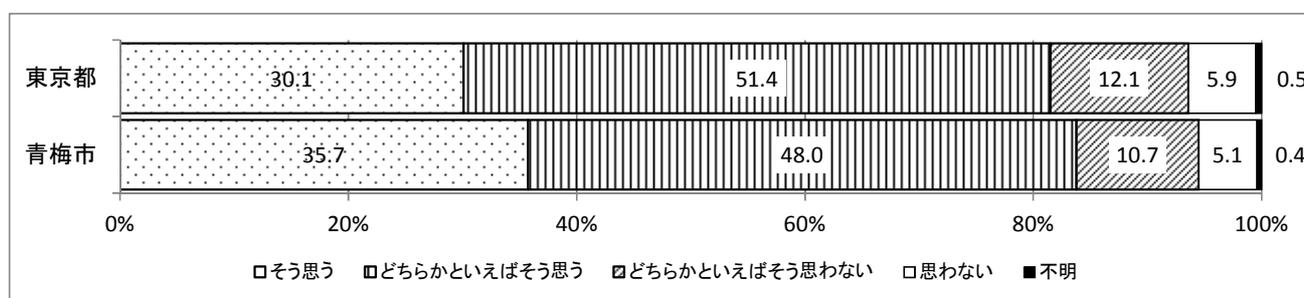
③ 学校・塾・習い事以外で、外国の人がいるとき、話しかけたことはありますか。



学校・塾・習い事以外で、外国の人がいるとき、話しかけたことはあるかという質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は、26.2% (26.2%) である。  
※( )内は東京都の数値

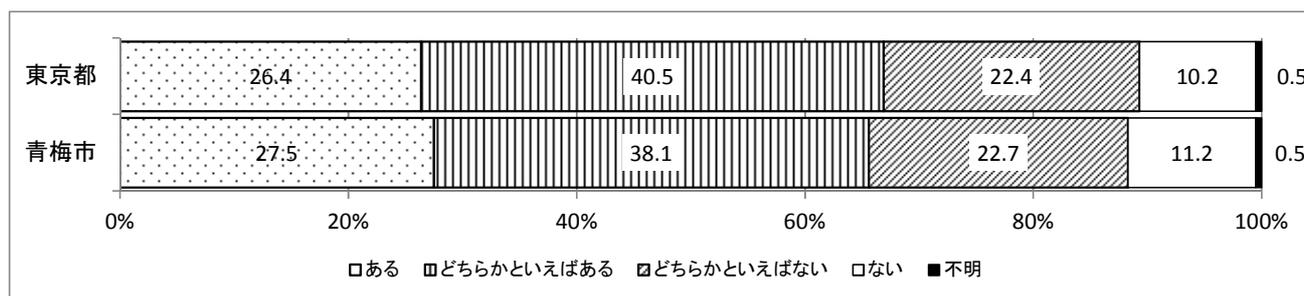
(7) 生活や行動等について

① 自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますか。



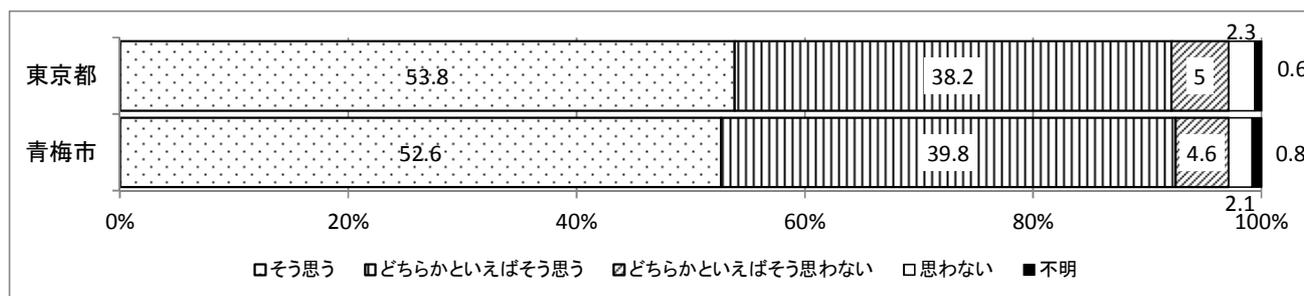
自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は 83.7% (81.5%) で東京都を 2.2 ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

② たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがありますか。



たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがあるかという質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は 65.6% (66.9%) である。  
※( )内は東京都の数値

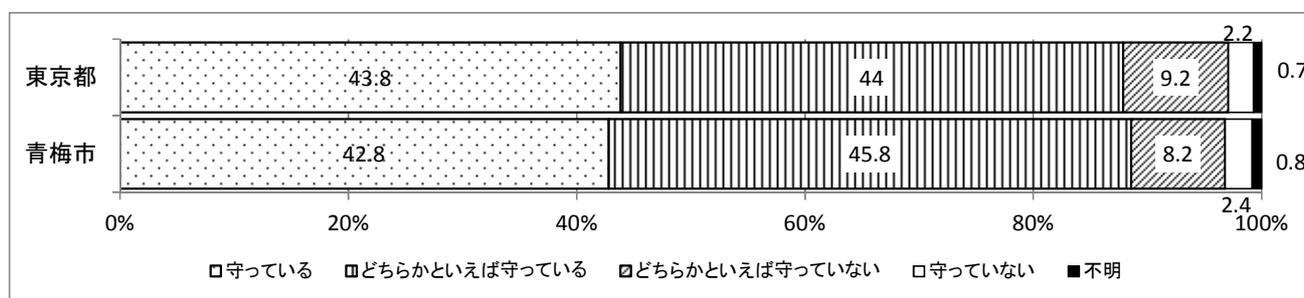
③ 学校の規則やきまりを守ることが大切だと思いますか。



学校の規則やきまりを守ることが大切だと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は92.4%（92.0%）である。

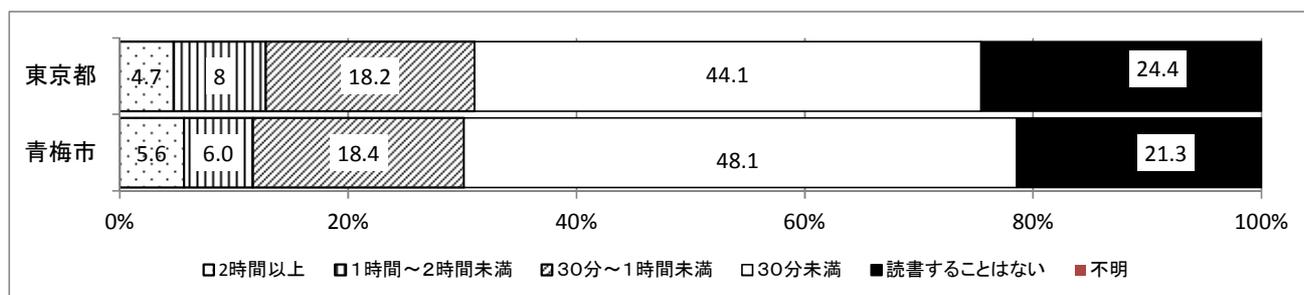
※( )内は東京都の数値

④ 学校の規則やきまりを守っていますか。



学校の規則やきまりを守っているかという質問に対して、「守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた生徒の割合は、88.6%（87.8%）である。※( )内は東京都の数値

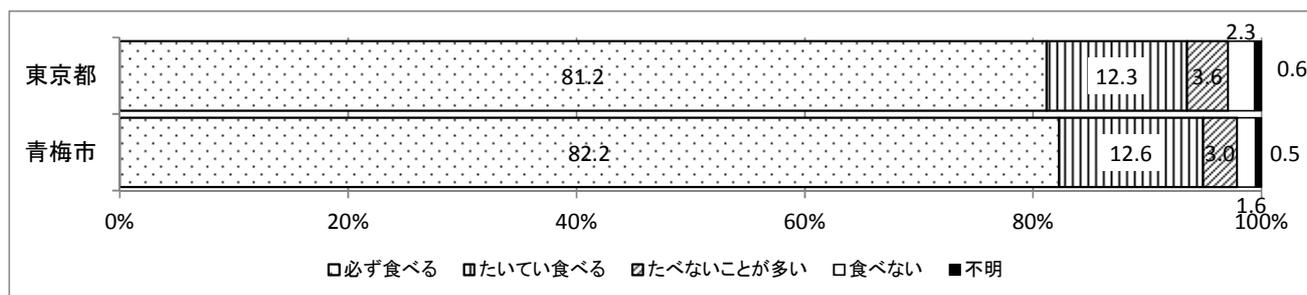
⑤ 読書を毎日およそどのくらいしますか。



読書を、毎日およそどのくらいするかという質問に対して、「読書をしている」と回答した生徒の割合は78.1%（75.0%）で東京都を3.1ポイント上回っている。

※( )内は東京都の数値

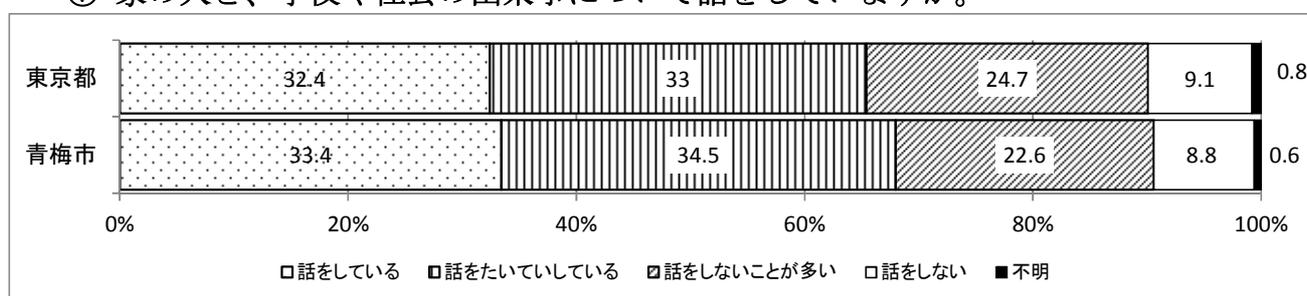
⑥ 学校に行く前に朝食を食べますか。



学校に行く前に朝食を食べるかという質問に対して、「必ず食べる」「たいてい食べる」と回答した生徒の割合は94.8%（93.5%）で、東京都を1.3ポイント上回っている。

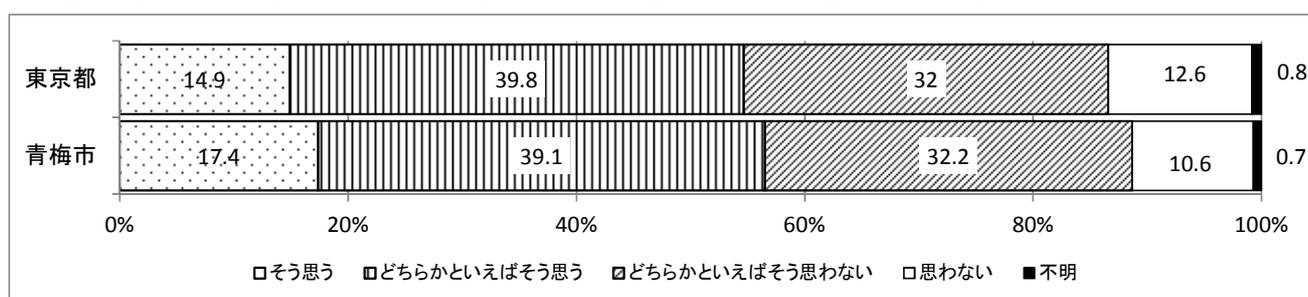
※( )内は東京都の数値

⑦ 家の人と、学校や社会の出来事について話をしていますか。



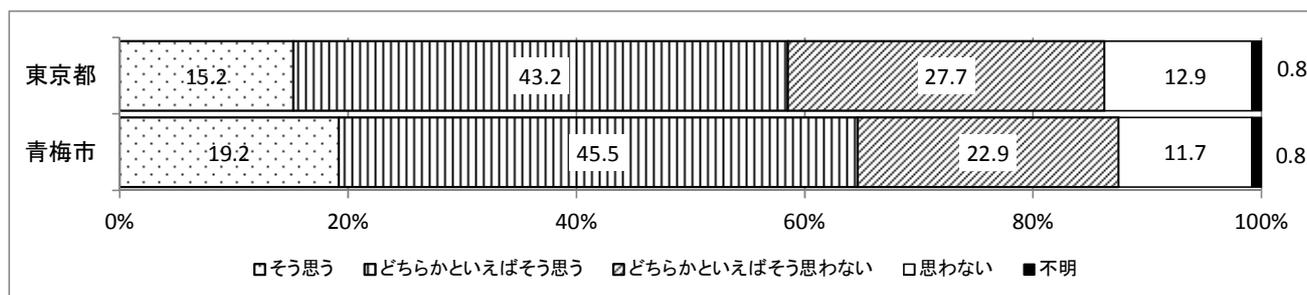
家の人と、学校や社会の出来事について話をしているかという質問に対して、「話をしている」「話をたいていしている」と回答した生徒の割合は67.9%（65.4%）で、東京都を2.5ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

⑧ 自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。



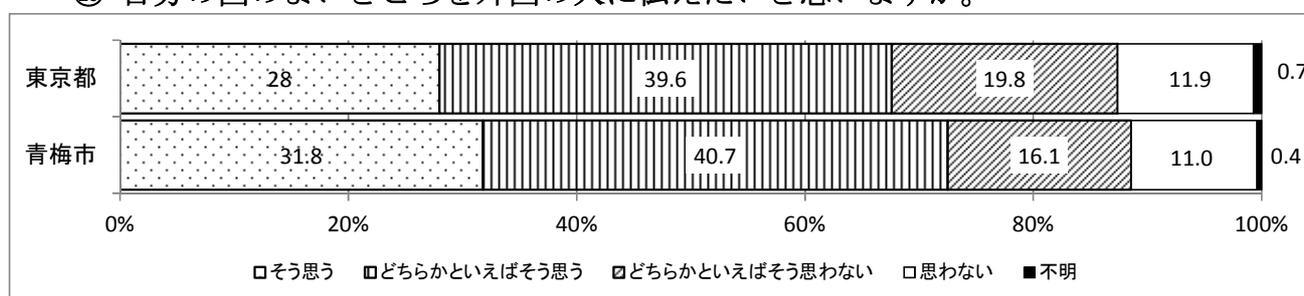
自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は56.5%（54.7%）であった。

⑨ 自分のことを大切な存在だと感じていますか。



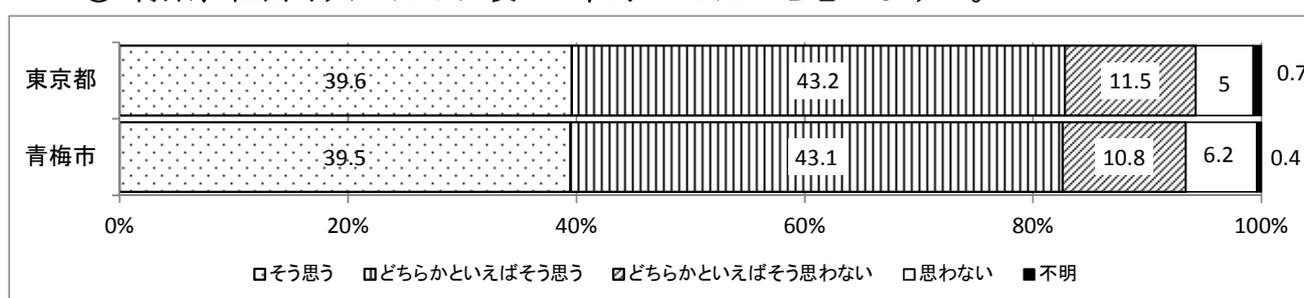
自分のことを大切な存在だと感じているかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は64.7%（58.4%）で、東京都を6.3ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

⑩ 自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思いますか。



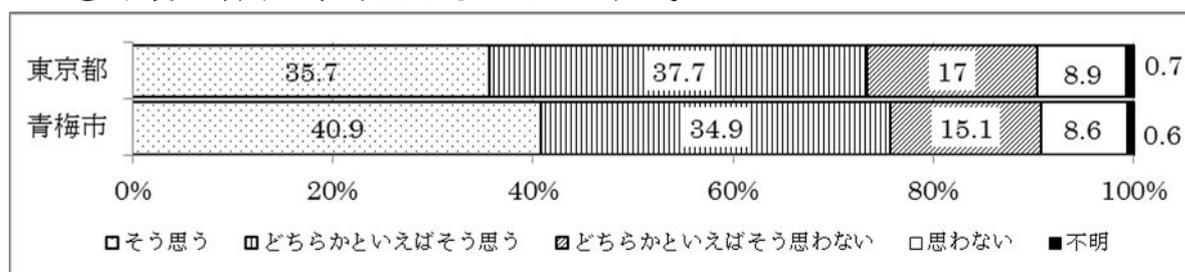
自分の国のよいところを外国の人に伝えたいと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は、72.5%（67.6%）で、東京都を4.9ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

⑪ 将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思いますか。



将来、社会や人のために役立つ仕事がしたいと思いますかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は、82.6%（82.8%）であった。

⑫ 自分の将来に、希望をもっていますか。



自分の将来に、「希望をもっている」「どちらかといえばもっている」と答えた生徒の割合は、75.8% (73.4%) で、東京都を2.4ポイント上回っている。※( )内は東京都の数値

### 3 指導の改善に向けて

本調査の結果から、確かな学力の向上を図るための指導上の改善点について提言する。

#### (1) 授業改善のための視点

##### ① 「基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成」を図る指導の徹底

本調査の結果から、国語、社会、数学、理科、英語のどの教科においても、授業がよくわかると感じている生徒ほど、平均正答率が高いことが分かる。授業が「分かる」と回答した生徒と「ほとんど分からない」と回答した生徒の平均正答率の差は、国語が(23.9)ポイント、社会が(23.5)ポイント、数学が(34.4)ポイント、理科が(23.9)ポイント、英語が(35.9)ポイントである。これらの結果から、「できない」「分からない」箇所があれば、繰り返しの指導だけでなく、前の学年や小学校段階の内容に立ち戻った指導を通して、「できる」「分かる」指導を徹底する。

##### ② 取り組むべき内容を明確にした復習の徹底

本調査の結果から、「その日に受けた数学の授業の内容について、家に帰って何を学習すればよいか分かっているか」の質問に対して「分かる」と回答した生徒ほど、平均正答率が高い傾向にある。生徒への宿題等の課題を提示する際には、日々の授業との関連を十分考慮したものとする。

#### (2) 学校と家庭との連携を図った指導の充実

本調査および今までの調査結果から、基本的な生活習慣、身辺自立、規範意識、忍耐力、自尊感情、奉仕の精神、社会貢献に関する質問に対して「している(そう思う等)」と回答した生徒ほど、正答率が高い傾向にある。また、家庭での学習習慣が身に付いている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

したがって、家庭との連携をより一層深め、生徒一人一人の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう指導していくことが大切である。例えば、家庭での学習習慣の確立を推進するためには、家庭での学習時刻や時間、テレビやゲームの利用の仕方等についてルールを決めるよう働きかけるとともに、日々の授業との関連を十分考慮した宿題等の課題を提示することが大切である。